

個人6位の堀尾選手

×

撮影・田母神一喜選手



たもがみ かずよし

田母神一喜選手(法3)は、1500mを得意とするランナーで、箱根駅伝予選会翌日の10月14日、秋季新潟県記録会で3分40秒66の自己ベストを更新した。日本学生歴代7位の好記録。800mの中大記録保持者でもある。

長距離ランナーが出場する予選会では、好きなカメラを持って応援撮影した。

箱根駅伝、 2年連続 92回目の 出場決める 予選会を8位通過 堀尾選手が個人6位で牽引

箱根駅伝予選会は10月13日、東京・立川市で行われ、中央大学は10時間42分55秒で8位通過した。来年1月2～3日の本戦へ2年連続92回目の出場を決めた。本戦では7年ぶりのシード権獲得を目指す。



チーム2位の中山選手



撮影・田母神一喜選手

39校・約450人が参加した予選会。スタート地点となった広大な陸上自衛隊立川駐屯地もランナーで地面が見えないほどだ。

早朝から来場した観客らは4万人を超えた。大学名が刻まれた無数の「のぼり」が沿道に隙間なく並ぶなか、選手は各校10~12人が走り、上位10人の合計タイムを競った。

今回から距離が伸びて、前回までの20^{キロ}からハーフマラソンと同じ21・0975^{キロ}に。レース展開はいっそう厳しくなった。

レースが始まった。外国人留学生が飛び出して行く。追走する集団のなかに、中大・堀尾謙介選手(経4)がいた。

必死の表情で食らいつく。2018年箱根駅伝では激戦の2区を任せられ区間8位。ハーフマラソンの中大記録を持つ。今シーズンは「エース」と呼ばれる存在だ。

沿道から「中大ファイト!」「頑張れ中央!」の声援を受けた。結果は個人6位となる1時間1分57秒。同タイムは中大新記録。日本人選手では3位だった。

レース後、「8位 中央大学」と発表されると、堀尾選手は胸に手を当ててホッとした表情を浮かべた。報告会で藤原正和監督から「中大記録です」と紹介され、笑顔を見せたものの、「本戦へより一層危機感を持ってやっていきます」と表情を引き締めた。

第95回箱根駅伝出場校

◇前年シード校

青山学院大
東洋大
早大
日体大
東海大
法大
城西大
拓大
帝京大
中央学院大

◇予選会突破校

駒大
順天大
神奈川大
国学院大
明大
東京国際大
大東大

中大

国士舘大
山梨学院大
上武大

日大(インカレ成績枠)

関東学生連合(オープン参加)

関口康平主将(理工4)は「エースとして堀尾、中山両選手がいつも以上の力を出してくれた。そのおかげで8位になりました」と同僚に感謝。中山顕選手(法4)はチーム2位。

主将は自らを「ペースメーカーとして自分の役割を果たせたとおもいます」と言い、結集した総合力に満足そうだった。出場12選手のなか、自己ベストを出した選手が7人。チームの課題の底上げが実っているようだ。

藤原監督は年々レベルが上がる箱根駅伝へ、「スピードのアップ。トラック1万kmのタイムをあげていきたい」と話し、「メンバー入りを虎視眈々と狙う選手がいます」と期待を込めていた。

関口主将は選手らがつくった輪の中で明言した。「本戦は絶対シードを取るぞ」。チーム、大学、在校生、卒業生すべての願いだろう。

箱根駅伝予選会 中大・上位10選手

順位	選手名	記録(時間・分・秒)
6	堀尾 謙介(経4)	1・01・57
28	中山 顕(法4)	1・03・20
35	池田 勤汰(商2)	1・03・34
53	三浦 拓朗(商1)	1・03・51
95	矢野 郁人(商2)	1・04・31
99	舟津 彰馬(経3)	1・04・33
110	三須健乃介(文2)	1・04・43
143	神崎 裕(文4)	1・05・11
169	関口 康平(理工4)	1・05・30
186	二井 康介(文3)	1・05・45



力走する中大ランナー(写真中央、白いユニホーム勢)。左から三須、矢野、関口、神崎各選手(写真提供=共同通信社)